

Vol. 36



2008. 1. 8



## CONTENTS

- 2 沖縄県環境影響評価審査会と知事意見
- 3 三省交渉、院内集会
- 4 鳥羽水族館ツアー報告
- 5 ありがとう地球・虹のまつり
- 6 辺野古・大浦湾調査報告
- 7 沖縄の食と生活① 肉料理と正月

明けましておめでとう！とは言っても、本当におめでたい年になるのか？ どうか。

日米軍事産業企業暴力団同盟の愚かな横暴を見ていると、悲しくなるばかり。また、グローバル資本のあくなき欲望のバブルが、いつ大崩壊をきたすのか？ 不安である。

いずれにしても、私たちを取り巻く全ての環境が大変厳しい現状にあることに変わりはない。しかし、それでも、SDCCは希望を失うことはない。むしろジュゴンにこそ希望を託して、崩壊後の再生に備えるのである。

明るい話題として、今年10月にはスペイン・バルセロナにて、IUCNの大会を迎える。2010年「国際ジュゴン保護年」の制定に向けて取り組まなければならないが、それが成功すれば、辺野古に軍事基地を造らせないための国際的な大きな力となる。

### 謹賀 2008年

### SDCC代表 海勢頭 豊

SDCCの目的のひとつが、辺野古に軍事基地を造らせないことは当然である。そこで、私たちが、絶滅が危惧されるジュゴンを救おうなどと、おこがましく考えるより、むしろ今日の人類の危機に直面するにあたり、その現状を打開するべき重要なメッセージを「神の使い」であるジュゴンから聴いて、受け止めなければならぬと考える。

実は1700年も昔に、すでにヒミコがそのことを覚り、非武非戦の思想で邪馬台国を統一し、平和な時代を築いている。そして、彼女が創作した平和のための神話は、今でもその真実を隠し伝えているのである。

私は昨年、神女たちの勾玉がジュゴンのペンダントであることに、やっと気付いたのだが、さらに「韓国9条の会」に参加したときに、琉球からヤマトそして朝鮮へと広がっていった平和のシンボル「巴」マークのルーツの謎も、ジュゴンであるとの確信を得た。

人間に「絶対平和主義」を教えてくれるジュゴンこそ、人類の危機を救うと思うのである。

**[WEB]** <http://www.sdcc.jp/>

**[EMAIL]** [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)

### 今年10月にバルセロナでIUCN会議

2008年10月5～14日に開催されるIUCN第4回世界自然保護会議には、世界中からたくさんの環境保護団体や政府機関などが参加します。SDCCも参加し「2010年を国際ジュゴン年に」の決議採択を目指します。国際的取組みでジュゴンを守りましょう。



←  
バルセロナ会議  
のロゴマーク





# 新基地建設推進の知事意見を許さない



12月21日に仲井真知事は沖縄防衛局に意見書を出しました。

知事意見書は県環境影響評価審査会の答申「調査を行う前に当審査会と沖縄県に具体化した内容と選定した項目ならびに調査、予測および評価の手法と検討した内容について報告・協議の上で決定し、その結果を公表すること」を「真摯に受け止めること」を防衛局に求めています。環境影響評価方法書のやり直しを求めています。事前調査（現況調査）についても、「中止を含めて検討する必要がある」と審査会の指摘を「十分配慮するように」と、結局は事前調査を認めるものでした。それどころか、県審査会が答申していない「沖合い飛行場建設」を挿入しています。審査会答申をねじ曲げた知事意見です。

すでに沖縄防衛局は2月に本調査に入ることを明言しています。2014年の基地建設完成にむけて、遅れているスケジュール（09年環境アセス完了。翌年着工）を一方向的に進めるに違いありません。北部振興策事業費100億円で沖縄県の頭をなでれば可能と足元を見ているのです。

環境影響評価の方法書とは「事業内容がある程度決定した上で、実施すべきもの」というのが県審査会や私たちNGOの立場です。県審査会の質問に対して「計画が決定しておらず具体的に示すことは困難」との回答が多い沖縄防衛局が方法書を出す資格はありません。方法書にもとづいて、地域住民などと一緒に環境影響を具体的に検討することで、影響を回避し少なくする調査や方法を考えるのが環境アセスメントのあるべき姿なのです。沖縄県審査会の答申をねじ曲げた沖縄県に抗議しましょう。次の闘いの節目は1月21日（埋め立てに関する知事意見）です。2月からの本調査をねらっている沖縄防衛局に、「調査を行う前に具体化した内容と選定した項目ならびに調査、予測および評価の手法と検討した内容を公表すること」を要求しましょう。この要求を防衛局が無視するなら、沖縄県にサンゴ類の採捕の許可を出さないように要求しましょう。

※以上の趣旨に賛同の方は下記のメールアドレス、電話番号に（沖縄県知事公室広報課）に『県審査会答申をねじ曲げた知事意見を許さない』とのメール、ファックスを送ってください。  
1月21日が法アセスメントの知事意見提出期限です。

メール [kouhou@pref.okinawa.lg.jp](mailto:kouhou@pref.okinawa.lg.jp) fax 098-866-2467



琉球新報記事より



# 環境省ショック...

## —防衛省の環境影響評価課か?—

11月26日に辺野古・大浦湾新基地建設の環境影響評価方法書について外務省、環境省、防衛省と交渉しました。12月21日に沖縄防衛局に県知事意見を出す前に、方法書の見直しと公告縦覧をやり直させる圧力をかけるために三省交渉しました。

環境省環境影響評価課は今年の4月に戦略的環境アセスメント（計画段階から複数案で検討する国際水準をめざしたもの）のガイドラインを決めた結果、課長以下が人事異動で飛ばされました。環境省の後ろ向きの姿勢を心配していましたが、案の定、新基地建設を進めるために環境影響評価法に背を向ける対応に終始しました。それを端的に現すエピソードを紹介します。



<2007.11.26 三省交渉>

沖縄防衛局の方法書にはジュゴンが天然記念物であり、絶滅危惧種であることを明記していません（他の生物は明記）。このことについて環境省の意見を求めると、「方法書に一定のスペースをとってジュゴンについて書かれているので問題はない」とかたくなに防衛省を擁護しました。絶滅危惧種などの指定こそが環境省が持っている最大の権限であるにもかかわらず、それを捨て去る環境影響評価課は、防衛省の環境影響評価課かと思ってしまうほどでした。ジュゴン保護など担当の野生生物課の職員は下を向いて聞いていました。また、戦闘機装弾場の建設位置や運搬手段などについて方法書の問題点を指摘すると、人の安全などはアセスの対象外だと断言。あいた口がふさがらないとはこのことだと思いました。交渉後に「環境省ショック」との言葉が生れるほど環境省への怒りが高まりました。

成果もありました。防衛省は準備書で「天然記念物、絶滅危惧種と明記する」ことを約束しました。環境省は飛行場のアセスメントは規模の関係で沖縄県条例アセスの対象なので「沖縄県の判断を尊重する」と明言しました。外務省はアメリカでのジュゴン訴訟の判決が出た後に自らの役割が出てくることを認めました。沖縄防衛局の方法書の見直しさせる闘いで、環境アセスメントを発展させる以外にないと思います。

### 報告



## 11.14院内集会



11月14日午後、衆議院第1議員会館で院内学習会「普天間アセス方法書の大きな過ち」を開きました。呼びかけは山内徳信参議院議員ら沖縄選出議員5人とWWF、SDCCなど環境団体とヘリ基地反対協など10団体。多くの国会議員、秘書を含む80人を超える参加がありました。午前中の防衛省交渉の報告に続いて、「軍事施設・演習内容の未記載・隠蔽について」が吉川さん（市民アセスなご）、そのコメントを真喜志さん（沖縄ジュゴン環境アセス監視団）、「アセスの手続きと方法書の非科学性」を花輪さん（WWFジャパン）、現地からの報告を安次富さんから行われました。

環境アセスメント法を無視して一方的に進めている沖縄防衛局のアセスメントを止めるにはどのような手立てがあるのかなど活発な論議が行われました。沖縄県環境影響審査会での環境団体の発言や審査会の現地調査の実施など方法書の公告縦覧をやり直させる取組み。国会での系統的な質問や裁判提訴で秘密主義的な環境アセスメント批判の世論広げ、ダメージを与える。アメリカの市民運動との連携などを進めるなど論議されました。今後も、国会と環境運動、平和運動、沖縄の運動をむすんだ取り組みがますます重要になってきます。



# ジュンイチ・セレナに会いに行きました 大満腹でした！鳥羽水族館ツアー



昨年12月8日に三重県の鳥羽水族館に行ってきました。今回参加者は少なかったものの、東京や岐阜からの参加者もありました。とても楽しかった、そしてためになったバックヤードツアーの報告です。



セレナをなでなで。とってもかわい〜☆

毎年恒例の鳥羽水族館ジュゴンツアー、今年は参加者が少なく、寂しいツアーになるかなあと心配したのですが、それはとんだ取り越し苦労でした。寂しいどころか例年にない盛り上がりを見せました。少人数がかえって幸いして、参加者全員でマナティにはにんじん、ジュゴンにはアマモのエサやりを体験させて頂きました。そしてこれまた参加者みんなでジュゴンのセレナを撫で撫で。セレナもご機嫌の様子で、体をクルリと回転させてお腹を見せてもっと撫でて〜といわんばかりのポーズ。もうこれには全員メロメロ、セレナに悩殺されてしまいました。

例年バックヤードツアーはマナティとジュゴンのニカ所を見学して終了なのですが、今回は少人数ということで通常のバックヤードではあまり行かないという裏側の通路をも案内していただきました。バックヤード見学に先立ち、副館長さんからは鳥羽水族館歴代ジュゴンのお話、興味深いエピソードなどをお聞きました。今回はサプライズが多く、感動いっぱい、大満腹なツアーでした。

ジュゴンパラダイス三重☆野田啓子



ニンジンをパクッ♡  
マナティはでっかい！  
メスは体重800kgもあります

レクチャールームで浅野副館長さんから、ジュゴンについての貴重なお話をうかがいました。鳥羽水族館では、30年前にジュゴン飼育をはじめた当初、えさのアマモを職員の皆さんが近くの海に潜ってとっていたそうです。寒い冬など、とても大変な作業でしたが、そのがんばりがジュゴン飼育を成功に導いたのでしょね。

そのほか、海獣類の分類、ジュゴンとマナティの違い、沖縄のジュゴンレスキューについてなど、どれも興味深いお話を聞かせていただきました。

参加者からは、ジュゴンの繁殖についてなどたくさんの質問が出ました。セレナとジュンイチの子どもを期待する声が強いのですが、飼育下ではなかなか難しいようです。

でもやっぱり赤ちゃん誕生を期待したいですね☆

↑  
今は、エサのアマモは韓国から輸入しています。一日30kgも食べるので、網にアマモを、くくりつけるだけでも大変です。

→  
こうしてアマモはセレナとジュンイチのもとへ。  
おいしいな〜♪  
パクパク







# 「ありがとう地球～虹のまつり～」

11月10日、11日と奈良公園で「ありがとう地球 虹のまつり」が行われ、ブースを出して参加しました。私は11日のみの参加でした。この日は朝のうちは晴れていましたが風がきつくグッズが飛ばされないように抑えなくちゃいけないし、お昼からは雨が降り出してしまったり出したりと散々でしたが、楽しい1日でした。

参加ブースはほとんどが環境保護に関する団体が多く、ロハスなどを提唱する団体もありました。地元奈良からは奈良の鹿を保護する団体があり交通事故や誤飲などで鹿が死んでしまうことがあると、パネルや誤飲した実物を見せていただきました。また目を引いたのは「ふんどし」を売っているブースです。さらっとした生地で締め付けずお肌にやさしいらしく、最近を着用する人が増えてきたそうです・・・本当かな～？！

私たちのブースにもいろんな方が来てくださいました。意外にもジュゴン＝沖縄ということを知っている方が多いのには驚きました。環境をテーマにした方々はさすがでした！奈良という場所では初めての参加でしたが、奈良の鹿もかわいいし、また来たいです！

上田千鶴



## 11/10海勢頭平和コンサート & 鳥羽水族館ツアー



セリナとカメ吉（レプリカ）の前で「ハイ、チーズ！」  
ジュゴンに会った後は、みんなこんなにいい笑顔。



コンサート会場の  
『ジュゴンパネル展』



11月10日海勢頭豊さんのコンサートが三重県津市で初めて開催されました。

約200名の方が参加され、会場の広さともマッチして、とてもアットホームな感じのコンサートでした。海勢頭さんの歌あり、勾玉（まがたま）等のお話ありで、あっという間の1時間半でした。舞台中央にはS中学3年生の皆さんが折った色紙ジュゴンが飾られ、舞台に花を添えていました。私は会場入り口付近で『ジュゴンパネル展』をやらせて頂きました。熱心に見入って下さる方もみえ、毎月第4土曜日はパネル展を開催予定ということをお話させて頂きました。最後はみんなで「月桃の花」を大合唱して幕となりました。

翌日は海勢頭さんを含め、総勢12名で鳥羽水族館バックヤードツアーへ出かけました。浅野副館長さんの説明を聞きながら、ジュゴンとマナティのバックヤードを見学しました。わずか1時間という短い見学でしたが、最後はみんなで記念写真を撮り、中身の濃いツアーとなりました。

ジュゴンパラダイス三重☆野田啓子



ジュゴンを守る仲間たち

# —大学祭にまたもやジュゴン出現—

11/24(土)に、大阪女学院で大学祭がありました。  
 沖縄同好会・ニライカナイでは、ちんすこうとサーターアンダギー  
 (学校近くのゆいま〜る産と大正区の商店街産)の販売と沖縄の写真展示を行いました。

今年は、2つの団体にお世話になりました。大阪行動のジュゴンママに、ジュゴン人形の販売に来て頂き、SDCCメンバーもSDCCのグッズの販売をして下さいました。ジュゴンママのジュゴン人形と、SDCCのグッズが、品薄なスペースを華やかにしてくれました！右見ても、左見ても、ニライカナイのスペースは、ジュゴンでいっぱい。SDCCのグッズでは、携帯につけられるサイズのジュゴンが好評でした。

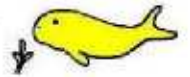
また、舞台では、卒業生が作詞した「ニライカナイの唄」を披露しました。  
 色々な形で、沖縄のよさやジュゴンのよさが皆に少しでも伝わればと思います。あまり凝ったことは出来ませんでした。手伝ってくれた皆と、立ち寄ってくれた皆さんに感謝してます。私にとって最後の大学祭でしたがとても充実していました。

瀬口久恵



報告

## 第2回事前調査の検証



大浦湾 アオサング群落



大浦川河口 マングローブ林

11月17日～18日に、辺野古・大浦湾調査ツアーに行ってきました。前日の16日に「明日作業船が出るらしい。海上で抗議行動をするからなるべく早く来て欲しい」との連絡が入り、緊張して現地入りしました。しかしこの日は作業船は出ず、抗議行動もありませんでした。

今回の調査ツアーのポイントは、「大浦湾の自然」です。ジュゴンが回遊している大浦湾の自然をしっかりと調査し、記録することでした。

ひとつは、大浦湾で発見されたアオサングの群落です。80メートル以上の大きな群落で、石垣島に次ぐ規模ではないかと言われています。手つかずの自然が残る大浦湾だからこそ、アオサングの群落が残っていたのではないかと思います。

ふたつめに、大浦川の河口に名護市天然記念物のマングローブがあります。多様な生物が生息し、栄養分を大浦湾に注いでいるたいへん貴重なものです。

ジュゴンの棲む海を守ることは、やんばるの山〜マングローブ〜海をひとつのものとして守っていくことが大事だと痛感しました。第3回目の調査ツアーも企画したいと思っています。

三村昭彦

# 沖縄の食と生活⑪

## 肉料理と正月



仏教の影響をあまり受けなかった沖縄は、中国や東南アジアとの交易の中で冠婚葬祭に豚肉が使われるようになり、無くてはならないものになっています。しかし、もともとは生活が貧しいということもあり、肉が贅沢に食べられていたのではなく、行事などの時に食されていました。お正月になると各家庭で豚肉が食され、ウァーソーガチ（豚正月）と称されるほどで、今日でも普通の3、4倍の豚肉が正月用に出回るそうです。

今では自家用に屠殺する風景はなくなりましたが、かつては農家などで飼っていた豚を、各家で屠殺しお正月を迎えました。豚は2、3日前から餌を与えず、腸の中の残留物を少なくして、屠殺後は木にぶら下げ血液を出すことから始まります。解体された豚は捨てる場所がないほど上手に利用され、いろいろな料理や保存食として姿をかえるのです。部位により確立された料理になります。

血液は三枚肉や大根、ニンニクの葉とともに炒め煮にして「チーイリチャー（血の炒め物）」にします。ミミガーは「豚の耳」で、茹でて薄く切り、ピーナツバターや酢味噌和えにします。ミミガーサシミとか、ミミガーエムン（和え物）といいます。ソーキは方言でザルの事を言い、肋骨部分が似ていることからソーキと呼ばれます。テレビチは豚足の事です。骨付きのぶつ切りを結び昆布や大きく切った大根や冬瓜と煮込みながら丁寧に脂を取除きお汁にします。出来上がったものは脂っこさがなく、ゼラチン質に富み、今流行のコラーゲンたっぷりの栄養価の高い濃厚なお汁になります。三枚肉を皮付きのまま醤油で甘辛く煮込んだものがラフティーですが、三枚肉は塩をすり込んでスーチキ（塩漬）にして保存しました。暑い沖縄の冷蔵庫の無い時代に貴重な蛋白源の保存食でした。脂は絞って（ラード）保存し、ンブシーやチャンプルーに利用。勿論、脂の絞りかすも料理に使われ、単調な野菜料理の味付けに十分な役割がありました。

今日では家庭料理を沖縄料理、宮廷料理を琉球料理と区分したりしていますが、いずれにしても豚肉料理は見事に生活に溶け込んでいます。

そんな豚肉料理ですが、私の一押し料理は「中身の吸い物」です。中身とは豚の小腸あるいは胃や大腸なども含めたものです。丁寧に洗い、軟らかく茹でた後細く切り、こんにゃくや椎茸の千切りと共に、豚茹で汁とカツオ出し、椎茸の戻し汁を加えて塩、醤油で調味した汁に仕立て、生姜を薬味に食します。このような料理に仕上げた先人の知恵に敬服せざるを得ない素晴らしいものです。

最近では手間の掛かる伝統食離れと共に、米軍統治下でいち早く洋風化の影響を受けた食生活の変化により、長寿県沖縄がぐらついているのも現実です。

宮城都志子

### お知らせ

## 2/3ちゃんぶるウォーク in 御堂筋



沖縄県防衛局は、2月初旬に、基地建設に向けた本調査開始を予定しています。環境破壊の調査をなんとしても止めたい！じっとしてられへん！そんな思いから、ピース・ウォークを企画しました。

集合場所：堀江公園

（地下鉄四つ橋線・四ツ橋駅 鶴見緑地線・西大橋駅 下車5分）

日時：2008年2月3日（日）

集合時刻 午後2時 集会30分

ウォーク出発 午後2時半

ウォークのコース 堀江公園～四ツ橋筋～心斎橋～難波



前回のちゃんぶるウォーク

昨年1月から集めているジュゴンイラストバナー10数枚を持ってにぎやかにウォークします。集会の企画やアピール、音楽、鳴り物、パフォーマンス、エイサー、ジュゴンイラストプラカードなどのアイデア募集中！当日とび入り大歓迎！みんなの力でウォークを盛り上げてください。ご参加お待ちしております。



# 「風の里」♪じゅごんマスコットが買えるお店♪

今回紹介するお店は SDCC パンフレットを置いて下さっているだけでなくじゅごんマスコットが買えるお店です♪

沖縄県南城市佐敷字新里 129番地にある「風の里」さんはフェアトレード・エコショップとカフェをされているとってもオシャレなお店です。オーナーは平和や環境問題に関心がある素敵な方でお店にもその思いが表れています。お近くに行かれた際は是非お立ち寄り下さい。

「風の里」さんには以前から SDCC パンフレットを置いて頂いていた事もあり沖縄に行った際に食事がてらご挨拶に伺ったところ、ご厚意でじゅごんマスコットを販売して下さいというお話を頂きました。お店を通して何かの役に立てるだけで十分という思いと、その売り上げが私達の活動資金になるのだからと手数料などお店の利益ナシで置いて頂けるというオーナーの気遣いにも感謝の気持ちでいっぱいです。

買い物に行った先のお店でパンフレットをみて SDCC を知りました、という方も実際にいるのでこれからもご協力頂けるお店を沢山増やしていけるように頑張ります！また、置いて上げますよ！というお店からのご連絡もお待ちしております。 小平裕美



「風の里」さんの店内

大阪でも・・・

フェアトレード&沖縄陶器のお店

「ヌチグスイ」さんもジュゴングッズを置いてくださっています。

場所 大阪市中央区難波千日前3-12

なんば花月の裏側です。  
とっても素敵なお店ですよ～



## 「希望の歌 沖縄発一平和への潮流」

日時 2008年3月9日【日】 開演14時  
場所 読谷文化センター（読谷村役場近く）  
料金 2000円



## 沖縄ジュゴンパネル展 in三重

ところ みえ市民活動ボランティアセンター  
イベント情報コーナー

近鉄・JR津駅前アスト津ビル3F

時間 2008年1月26日（土）10時～15時

今後、月に1回の割合でジュゴンパネル展を予定しております。（毎月だいたい第4週目の土曜開催予定）

★ジュゴンの写真がいっぱいです！

お近くの人ぜひのぞいてみてくださいませ

主催 ジュゴンパラダイス三重

### ☆ ボランティアスタッフ 募集 ☆

SDCC では常時ボランティアスタッフを募集しています。ネットでのよびかけ、街頭での宣伝、グッズやイラスト作成、事務所での整理や発送作業など、お手伝いいただける方はぜひご連絡をお願いします！

### Editor's Note

2008年は子年そして国際サンゴ礁年です。私にとっては毎年がジュゴン年ですが、今年はバルセロナ会議で「2010年を国際ジュゴン年」にするべくがんばります。今年もよろしく願いいたします。(Y)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.36 2008年1月8日発行  
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)  
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2 1  
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内  
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)  
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302  
TEL/FAX 06-6353-0514

